



マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

一般社団法人マナティー研究所

2022 年度

活動報告書



マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

社) マナティー研究所 2022 年度 活動報告書

対象期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日までの活動を報告します。

作成日：2023 年 4 月 25 日

もくじ

1. ごあいさつ「推しのマナティーのために」	-----	3
2. 環境教育コンテンツの開発	-----	4
3. ワークショップ	-----	5
4. その他の活動	-----	7
5. 助成金等	-----	7

添付書類（活動計算書および貸借対照表）



1. ごあいさつ

「推しのマナティー」のために

代表理事 富田 明広

8月13日から15日の3日間、新屋島水族館の2頭のマナティー「ニール」と「ベルグ」の前で、マナティーの体のつくりが分かるワークショップを開催しました。そのとき、あるご婦人の来館者の方がマナティーのパズルを組み立てながら話しかけてくださいました。

「マナティーが大好きで、鳥羽水族館にも行ったんですよー！優しい顔をしているし、丸くてかわいいから、大好きなんです。」

美ら海水族館にも行ってみたいとのこと。この方をはじめ、多くの方がマナティー愛を私たちに語ってくださいました。マナティーファンの方がこんなにもいらっしゃるなんて、実は、マナティー研究所を通して初めて知ったことです。

「推し活」という言葉が一般的になりましたが、それは「アイドル」や「キャラクター」などに向けられるものだと思っていました。しかし、動物たちにも向けられていい言葉であると思いました。「推し」の対象が動物たちにも向けられれば、ステキな相互作用が次々と起きるかもしれません。

地球環境を守るために「推し事（おしごと）」し、他の動物たちと連携しながら「推しフェス」する。そして、レッドリストの動物たちの二次創作でクリエイターとファンが交流する。これまで、環境保護のボランティアや生育環境を守る活動などが「意識高い系」と揶揄されたり、二次創作クリエイターなどは「ヲタ」と痛い目で見られたりした風潮がありました。しかし、それはもう前時代的な発想です。動物たちへの「推し活」が環境保全活動の敷居を下げ、動物たちのデザインがプロダクトとなり、その活動をシェアできるようになりました。ユーザーとクリエイターの境界は曖昧になり、誰もが動物たちを守る活動に参加することができるようになったのです。「推しのために」「自分のために」「地球のために」が、同じベクトルで協働できる環境が整いつつあります。

新屋島水族館では、「マナやん」というキャラクターが人気を博しています。マナやんが館内をお散歩すると、みんなが集まり人だかりができます。マナやんを使ったキャラクターグッズも魅力的で、僕も思わず缶バッジやTシャツを買いました。すっかり「推し活」に勤しむ一人となっています。

「動物を推す」ということがエンターテインメントとなり、小さな経済圏として動き始めています。マナティーをきっかけに、身近な街の生き物、遠くの国の生き物、そして地球全体の環境へと広がり、「知りたい！」「考えたい！」「行動したい！」という気持ちを持つてたら、どんなにか素晴らしいことでしょう。マナティー研究所の意義はここにありません。

これからも、マナティー研究所を、「推し」の一つとしてご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。



2. 環境教育コンテンツの開発

良いワークショップとはどんなものだろう？2022年度になってようやく、良いワークショップの形が見えてきました。きっかけは、科学コミュニケーターの大淵氏と協力して開発した「絶滅したらどうなるの？」というワークショップです。これは、もしも生きものが絶滅したらどんなことが起きてしまうか、を考える内容です。マナティーやウミガメなど、誰もが守りたいと思うような人気の動物だけでなく、恐ろしいクマや大きなヘビ、ハチ、まさかのゴキブリの仲間など、いろんな動物が絶滅の危機に瀕しています。さあ、絶滅しても良い生きものはいるでしょうか？

「毛虫はいなくても良いと思う。」と誰かが言うと、「毛虫って他の生きもののエサになっているんじゃない？」「毛虫は蝶や蛾になって、花粉を運ぶんじゃない？」など、誰かの疑問や発言に対して、どんどん意見が出てきます。なかなか好きになれないゴキブリについても、「ごきぶりって何を食べているんだっけ？」「ごきぶりは鳥の餌にもなっているんじゃない？」など、他の生きものとのつながりを考えて意見が出てきます。

ワークショップで初めて会う人同士だと、緊張や恥ずかしさもあって、活発な意見交換はしづらいものです。けれど、ワークショップの中で大きく感情を揺さぶられることで、意見を言わずにはいられない子供たちをみて、「うまくいったなあ！」とワークショップに手応えを感じました。

モヤモヤと感情を揺さぶることで、考えずにはいられない、言わずにはいられない状態になります。きっと、ワークショップが終わってからずっと頭の中にモヤモヤが残って、ついつい考え続けることにつながるのだと思います。これが重要だと思いました。すっきりとした答えを与えるかわりに、モヤモヤする疑問を提供する。これを目指して環境教育を進めていくのも良いかもしれません。

さて、今年度は海ごみ問題の教材を開発することになり、ごみの専門家としてお笑い芸人マシンガンズの滝沢秀一氏に参加していただくことができました。ごみの正しい捨て方や分別方法はとても難しく、じっさいに清掃員として現場に出ている方に教えてもらうことで、正しい情報をお伝えできるようになりました。この教材はパンフレットとして作成して、クラウドファンディングでご支援いただいた皆様と一緒に作成をすすめました。デザイナーの荻本氏、イラストレーターのSuekiki氏のコラボレーションで、すてきな教材となっています。2023年度のワークショップで活用していきたいと思います。



3. ワークショップ

今年是对面イベントが実施できるようになったので、夏休み期間中、新屋島水族館でワークショップを実施させていただきました。3日間で合計138名が参加してくれました。

マナティー水槽のすぐ目の前で、「切ってはってマナティーパズル」をつくりました。特にマナティーの胸びれの形は難しいようで、なんども水槽に行って胸びれの形を確認する子供たちが多くみられました。このワークショップは、これまであまりに気にしなかった体の細かい作りを観察するきっかけになったと思います。

そして、2021年に開発したマナティーをテーマにした探究学習「マナティー大量死の謎をおえ」をオンラインで実施しました。また、2021年に開発した冊子教材「海をたいせつにする本」を活用したオンラインワークショップも実施しました。参加者に海ごみをテーマにした絵を描いてもらって、それを冊子の挿絵にして本を完成させる、という内容です。完成した本はHPで公開しています (<https://www.manateelab.jp/teach> 内「海をたいせつにする本」参照)。

そして、年度の最後に、教員とその親子を対象にした「鳥さんぽ」ワークショップを実施しました。マナティー研究所の教材づくりに協力していただいている荻本央氏を講師としてお招きして、公園で鳥の観察、クラフト作りをしました。普段何気なく見ている生きものへの観察眼を養い、関心を高める環境教育となりました。



写真1：新屋島水族館で「切ってはってパズル」を行っている様子。



写真2：横浜の鶴見川周辺で、鳥さんぽワークショップを行なっている様子。



表1. ワークショップ一覧

実施日	場所	イベント名	対象	人数 (名)	満足度 (%)
6月9日	学童保育 クランテテ	ちきゅうには生きものがいっぱい	小学生	14	100
6月11日	オンライン	サイエンスカフェ 「マナティーの見ている世界」 「サンゴ礁：生物多様性のホット スポット -サンゴと魚のはなし-」	どなた でも	97	多様性の理 解度 95
6月18日	オンライン	サイエンスカフェ 「クジラに学ぶ生物多様性のた いせつさ」 「マッコウクジラ目線で調べる行 動と人間の暮らし」	どなた でも	97	多様性の理 解度 95
6月25日	東川小学校	生きものたちのサバイバル	小学生	29	100
7月26日	学童保育 アイアム	あたらしい生きもの発見、 海ごみ新聞づくり	小学生	4	-
7月30日 8月6日	オンライン	マナティー大量死の謎をおえ	小学生	11	88
8月20日 8月27日	オンライン	海をたいせつにする本づくり	小学生	50	96
8月6日	オンライン	たねまきめぐ主催「アマゾンの生きも のを絵に描いてみよう」	小学生	10	-
8月13 -15日	新屋島水族館	切ってはってマナティーパズル	どなた でも	138	100
11月5日	東川小学校	絶滅したらどうなるの？	小学生	20	-
11月23日	オンライン	ピースボート主催 「マナティーから学ぶ環境保護」	どなた でも	60	100
12月26日	学童保育 アイアム	森はどうして大切ななの？	小学生	5	100
2月4日	オンライン	マナウス日本人学校主催	小学生	22	100



		「アマゾンの生きもの教室」			
3月26日	オンライン	第5回海牛祭り「マナティータイム」	どなた でも	63	92
3月29日	対面	親子ではじめての鳥さんぽ	教員親 子	12	100

4. その他の活動

メディア等

- ・ 2022年7月10日 TBS ラジオ出演「安住紳一郎の日曜天国」
- ・ 2022年12月7日 TBS テレビ出演「ワールド極限ミステリー」
- ・ 2023年2月15日 フジテレビ「世界の何だコレ!?ミステリー」・映像監修

5. 助成金等

名称：独) 環境再生保全機構 2022年度地球環境基金「つづける助成」

活動名：カメルーン南西部で絶滅の危機に瀕する大型水生ほ乳類マナティーと漁業の共存を目的とした、環境配慮型漁業の推進とエコ ツーリズムの整備

要望団体：African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)

代理人：一般社団法人マナティー研究所

金額：2700千円

期間：2022年4月 - 2023年3月

活動概要：絶滅の危機に瀕する海牛類マナティーは、大型の草食性・水生ほ乳類である。IUCN レッドリストデータの絶滅危急種に指定されており、特にアフリカ大陸の大西洋に分布するアフリカマナティー (*Trichechus senegalensis*) は漁網への混獲と密漁が大きな問題となっている。

カメルーンの Lake Ossa および Douala-Edea 自然保護区では、アフリカマナティーの生息域と漁業域が重なっているため、混獲、および害獣としての駆除や食肉目的の密漁が続いている。アフリカマナティーの生態についての知見はまだ乏しく、管理保護局の監視は行き届いていない。また、この地域ではマナティーの現状を学ぶ機会もないため、保全への機運が高まりをみせない。2019年度はじめる助成プロジェクトでは、混獲の現状把握と混獲回避のための新たな漁法の提案等を行ってきた。本活動では、混獲回避の漁法の使用



マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

範囲の拡大を目指すと共に、環境教育を発展させることを目指す。そして、マナティーを観光資源としたエコツアー案の実施に向けた準備を進め、将来的な保全と地域経済の活性化の両立を目指す。

名称：独）環境再生保全機構 2021 年度地球環境基金「はじめる助成」

活動名：生物多様性について考える環境教育を国内外の専門家と協力して開発、普及する活動

要望団体：一般社団法人マナティー研究所

金額： 1800 千円

期間： 2022 年 4 月 – 2023 年 3 月

活動概要：地球規模の課題として「生物多様性の保全」が挙げられており、このキーワードをニュースなどで耳にする機会が増えている。しかし、なぜ多様性の保全が必要なのかを理解している人は少ない。なぜ生きものが絶滅してはいけないのか？生きものが絶滅してしまったら、どんなことが起きるのか？多様性の価値について理解し、その保全の必要性について自分の考えを持つことが大切だ。

本活動では、子供から大人までを対象に、生物多様性の価値を正しく学び、保全の必要性について考えることができる環境教育プログラムを科学者、教育者、ワークショップのファシリテーターと協力して新しく開発し、その普及を目指す。そして、開発した教材を利用したワークショップづくりも行い、その実施マニュアルを作成、共有することで、教材が広く利用されることを目指す。さらに、開発した教材の翻訳、公開を行うことで、海外でも利用されることを目指す。

開発した教育コンテンツはオンラインや連携先機関を通じて、広く利用されることを目指す。生物多様性の価値が社会に浸透することで、他の生きものとの共存の大切さが理解されることを期待する。

名称：株式会社ミツバ様からのご寄付

活動名：環境教育のためのコンテンツの普及および非接触型の環境教育プログラムの実践

金額： 450 千円

期間： 2022 年 4 月 – 2023 年 3 月

活動概要：学校教育の中で、地球規模の問題について学び、環境保全に取り組めるようになることが求められていますが（文部科学省「環境教育」参照）、子供たち自身が環境を守りたいと考え、行動していくためには、自然や生きものをたいせつに思う気持ちが必要



マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

です。2020年度からご支援をいただき、私たちは環境教育の教材およびコンテンツの開発、実践を進めてまいりました。しかし、今なお続く COVID19 の影響によって、子供向けのワークショップでコンテンツを活用する機会を得にくい状況が続いています。そこで、自宅で学べる環境教育コンテンツとして活用していただくために、コンテンツ利用のためのインフラを構築することを目指します。また、非接触型の環境教育としてオンライン・ワークショップを開催し、コンテンツを利用した教育を進めていきます。



マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

2022年度 活動計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

[単位: 円]

科 目		収支計算
(収入の部)	I 経常収益	
	1. 受取寄付金	959,130
	2. 受取助成金	2,826,044
	3. その他収益	
	ワークショップ収益	320,813
	雑収益	79,270
	経常収益計	4,185,257
(支出の部)	II 経常費用	
	1. 事業費	
	(1) 人件費	
	臨時雇賃金	0
	人件費計	0
	(2) その他経費	
	通信費	137,582
	会議費	288,227
	旅費, 交通費	651,805
	広告宣伝費	292,562
	事務用品費	9,731
	消耗品費	103,305
	図書費	170,517
	租税公課	11,200
	支払い手数料	206,572
	雑費	90,818
	委託費	1,523,298
	預り金支出	122,144
	その他経費計	3,607,761
	事業費計	3,607,761
	2. 管理費	
	(1) 人件費	
	役員報酬	826,034
人件費計	826,034	
(2) その他経費		
租税公課	0	
雑費	0	
法人税等	70,000	
預かり金支出	0	
その他経費計	70,000	
管理費計	896,034	
	経常費用計	4,503,795
(当期収支差額)	当期正味財産増減額	△ 318,538
(前期繰越収支差額)	前期繰越正味財産額	856,150
(次期繰越収支差額)	次期繰越正味財産額	537,612



マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

2022年度 貸借対照表

2022年4月1日から2023年3月31日まで

[単位: 円]

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
	現金預金	537,612	
	未収金	-	
	流動資産合計		537,612
	資産合計		537,612
II 負債の部			
1 流動負債			
	前受金		
	未払金		
	短期借入金	0	
	流動負債合計		0
	負債合計		0
III 正味財産の部			
	前期正味財産		856,150
	当期正味財産増減額		△ 318,538
	正味財産合計		537,612
	負債および正味財産合計		537,612